

13 特別支援学級ってどんなところ？

知的障害と自閉症・情緒障害の学級があります。1学級8名が定員とされています。在籍するお子さんの人数、学年構成や特性・課題によって、学級が編成されることが多いです。そのため年度によって学級の人数が変わったりもします。他学年の子と同じ学級になることもあります。

どんな勉強をしますか？

知的障害学級はその子に合った学習内容を、その子に合ったペースで進めます。教科の学習に加え「自立活動」や「生活単元学習（教科領域を合わせた指導）」という学習で、日常生活に必要な技術や社会的なスキルを学びます。

自閉症・情緒障害学級は、基本的に通常学級と同じ内容の学習を、その子の特性や学びやすさを考慮して学びます。

通常の学級とのかかわりはありますか？

個々のお子さんの特性によって無理のない範囲で通常学級との交流があります。朝の会や、みんなと学んだ方が学びがあると判断された教科や単元は通常の学級で学ぶことがあります。また、校内行事も、その子の特性によって通常学級の中で参加することもあります。

体験談



小学校で知的障害学級に進学した保護者の話

息子は3歳のときに自閉症スペクトラムの診断を受けました。私立の幼稚園に入園し加配を受けましたが、不安感が強く、言葉もゆっくりであったので、その先の進路でも何らかの支援が必要だと親の意見は一致していました。

息子を支援してくださっている方々（主治医、幼稚園、幼児言語教室、児童発達支援事業所）に意見を求めました。トイレと着替えの身辺自立は出来ていたため、知的障害の支援学級を選択しました。知的であれば、本人の学習進度に合わせて無理なく学校生活を送れそうだったからです。進路を選択する

にあたって、子供の出来ないことにスポットを当てられたようで親は酷くがっかりしたり悲観してしまう時期ですが、専門家や先輩お母さんに相談できたことで、その時期を乗り越えられたと思います。



小学校で自閉症・情緒障害学級を選んだ保護者の話

幼稚園の時に、年中の時は1クラス16人→年長になり1クラス27人に増えました。この時に、子供から「今まで聞こえていた先生の声が聞こえない。」と言われました。子供には運動場の声、クラスの中の声、先生の声が同じボリュームで聞こえているようでした。

この話をした時に、主治医から教えていただいたことは、「音の拾う、捨てるが私たちは自然に出来ているが、この子の特性上、集団の中で出来るようになるのは11歳か12歳ぐらいじゃないかな。」ということでした。小学校からは勉強も入ってきますし、子供の成長を考えながら、11歳か12歳には通常学級に行くことを視野に入れた支援学級選択という道を選びました。

通っていた支援学級は自立活動でのソーシャルスキルの授業が充実していたので、「こういう時はどうすれば良いか」ということを授業の中でたくさん学ぶことが出来ていました。そして、先生がいつも近くにいたので、発表も臆することなくできる環境が良かったと思います。

